



社会福祉法人

熊本いのちの電話

KUMAMOTO INOCHINODENWA

通信 82号 令和8年春号



「共に」

熊本YMCA

総主事 学院長 伊藤 眞太郎

このたびご縁をいただき、「熊本いのちの電話」の評議員をお引き受けしております。

あらためて、その重みと責任の大きさを感じながら、この働きに関わらせていただいています。

近年、社会は大きく変化しています。経済的不安、孤立の深まり、将来への見通しの持ちにくさ——便利さや効率が進む一方で、心の負担を一人で抱え込まざるを得ない状況が、静かに、しかし確実に広がっているように感じます。誰かに弱さを打ち明けること自体が難しくなり、「助けてほしい」という言葉が、声にならないまま内側にとどまってしまう場面も少なくありません。

そのような社会の中で、「いのちの電話」は、顔も名前も分からない一人ひとりの声と向き合い続けてきました。電話の向こうにあるのは、答えを求める声というよりも、「今の自分を、そのまま受けとめてほしい」という切実な思いなのだと思います。評価や判断を急がず、相手の言葉に耳を澄ませる営みが、長年にわたり積み重ねられてきたことに、深い敬意を覚えます。

私は現在、熊本YMCAの総主事として、教育や福祉、地域づくりに携わっています。YMCAが大切にしてきたのは、「誰もがかけがえのない一人である」という視点です。人を成果や役割で測るのではなく、存在そのものに目を向けること。その姿勢は、分野は違えど、いのちの電話の歩みと重なっているように感じています。

私たちが目指したい社会とは、強い人だけが生き抜ける社会ではなく、弱さや迷いを抱えたままでも、誰かとつながり続けられる社会ではないでしょうか。声を上げられない人が、孤立の中で見えなくなってしまう社会。そのために、対話の場や関係性を丁寧に紡ぎ続けることが、今、求められているのだと思います。

次年度に向けて、評議員としての役割を果たしながら、この社会が少しでも人にやさしい方向へ向かうよう、微力ながら関わり続けていきたいと願っています。一人ひとりのいのちが、静かに、確かに大切にされる社会へ——その歩みを、皆さまと共に考えていければ幸いです。

通信82号 目次

|          |    |             |    |
|----------|----|-------------|----|
| 巻頭言      | P1 | つながる募金      | P6 |
| 公開講演会抄録  | P2 | ふるさと応援寄附金名簿 | P6 |
| 養成講座閉講式  | P4 | 感謝報告        | P7 |
| 熊本地震の思い出 | P5 | お知らせ        | 巻末 |



熊本いのちの電話  
ホームページ

熊本いのちの電話は熊本ロータリークラブにより誕生し以来ご支援を頂いております

テーマ

## 自死を悼むことと防ぐこと ～自殺対策20年の歩みとこれからのむけて～



講師

**勝又 陽太郎 氏**

東京都立大学准教授

### プロフィール

1980年生まれ。新潟県出身。首都大学東京大学院（現・東京都立大学大学院）人文科学研究科博士後期課程心理学専攻修了。博士（心理学）、公認心理師、臨床心理士。

日本のいのちの電話連盟総務委員会データ分析部会委員。

2001年より国の自殺研究（厚生労働科学研究）に関わり始める。精神科医療機関や教育機関で心理職として臨床に従事する傍ら、大学院在学中の2006年より国立精神・神経センター（現・国立精神・神経医療研究センター）精神保健研究所の研究者として、自殺の心理学的剖検研究や若者の自殺予防研究に従事する。

2013年より新潟県立大学人間生活学部子ども学科の教員として福祉専門職の養成に携わるとともに、地域での自殺予防対策や専門職の人材育成等にかかわる。

2020年4月から東京都立大学人文社会学部人間社会学科心理学教室に異動し、自殺の研究を続けるとともに、心理職の後進育成に従事している。

2026年2月23日、くまもと県民交流館パレア・パレアホールにおいて、第22回自殺予防公開講演会を開催いたしました。

当日は150名の皆さまにご参加いただき、会場は終始、熱心に耳を傾ける姿に包まれていました。

以下に、勝又先生の講演抄録を掲載いたします。

当日ご参加いただけなかった皆さまにも、講演の内容を共有できれば幸いです。ぜひご一読ください。

自殺対策基本法（以下、基本法と略）が成立してから今年で20年を迎える。国立精神・神経センター（現：国立精神・神経医療研究センター）に自殺予防総合対策センターが設置されたのも基本法成立と同じ2006年であり、筆者もその年に研究者として同センターに入職した。その意味では、この20年の自殺対策を振り返ろうとするとき、否が応でも筆者自身の経験を重ねて考えてしまう。

1998年に自死が急増し、2001年からは国が研究事業として対策を予算化した。筆者が自死の研究に取り組み始めたのはこの研究事業がきっかけであり、初めは自死遺族支援の研究に取り組んでいた。その後、自殺予防総合対策センターでは、心理学的剖検（psychological autopsy）を用いた自死の実態調査に取り組むとともに、自死や自傷行為を予防するための研究や臨床実践に従事してきた。本講演の演題である「自死を悼むことと防ぐこと～自殺対策20年の歩みとこれからのむけて～」は、こうした筆者自身の仕

事の変遷とその中で抱いてきた葛藤の歴史を表そうとした甚だ個人的なものに過ぎない。しかし他方で、「悼むこと」と「防ぐこと」という双方の視点を持つことは、自死の問題にかかわり続ける上で重要であったという直観めいた気持ちも強く、今回の講演ではこれまでの日本の自殺対策全体をこのテーマを軸に考察してみようと思った次第である。

自死は非常に複雑な事象であり、一意に定義することができない。理屈として考えてみてもそうなのだが、実際に様々な事例に触れるたびに、その複雑さを痛感する。こうした複雑な事象に対する対策を考えていく上では、時に立ち止まってあれやこれやと多角的に語る場が必要となる。しかしながら、自死について自由に語ることはそもそも容易ではなく、その語ることの困難さは自殺対策の進展と比例するかのようになってしまうように感じる。

ここで少しばかり、日本の自死の実態や対策の歴史について振り返ってみたい。先ほども述べたように、わ

が国では1998年に自死の数が急増し、その後も年間3万人という高い水準で推移した。2020年から数年間は新型コロナウイルス感染症拡大の影響も見られたものの、2010年代以降はおおむね減少傾向が続いている。もっとも、近年では子どもや若者の自死の増加が社会問題となっており、子ども家庭庁を中心とした対策も進められている。

自死を減らす効果が科学的に実証されている対策は、世界的にみてもこれまでほとんど明らかになっていない。日本の自殺対策の効果を検証した研究でも、残念ながら基本法が自死の減少に寄与したとは言えないことがわかっている。「だからこんな対策には意味がない」と言いたいわけではなく、そもそも自殺対策自体が挑戦的な要素を多分に含むものであり、息の長い取り組みが求められるものであると言えよう。

政府の自殺対策の指針である自殺総合対策大綱（以下、大綱と略）は、基本法成立の翌年の2007年に初めて閣議決定されて以降、5年おきに見直しが行われてきた。大綱の重点施策の変遷を簡単に振り返ってみると、この20年の間、実態分析の項目が縮小してきたにもかかわらず、対策の評価や科学的根拠に基づく修正などはほとんど加えられていない。また、他の施策や他国で取り入れられているような、政策決定に遺族等の当事者が参画する機会も拡充された様子が見られない。その一方で、対策の対象となる人の属性（子ども・若者、孤独・孤立、ひきこもり、妊娠婦など）や対策の方法論（ICTの活用、アウトリーチの強化など）に関する記載は肥大化し続け、専門的な支援サービスが強化されてきた様子が見て取れる。すなわち、この20年間を振り返って見えてくるのは、「新たな自死を防ぐための方法を検討すること（自死を防ぐこと）」に重点が置かれる一方で、「できたこと／できなかったことを振り返ること」や「すでに起こってしまった自死について考えること（自死を悼むこと）」がそれほど重視されなくなってきたという状況ではないだろうか。

自殺対策を論じる際に、しばしば登場する枠組みがプリベンション、インターベンション、ポストベンションの3段階である。このうち、自死を防ぐ活動に当たるのはプリベンションとインターベンションで、ポストベンションが自死を悼むことに該当する。自殺学の大家であるエドウィン・シュナイドマンは、自死の実態分析の手法として遺族をはじめとする周囲の人から話を聞く心理学的剖検の手法を確立したが、彼はその過程の中で遺された者の心理的苦痛に直面し、ポストベンションの必要性にも気づいたという。つまり一見すると関連性のない自死を防ぐことと悼むことの両者は、亡くなった故人を媒介しながらつながる自殺対策の重要な二つの側面であると言えるだろう。

従来は自殺対策において車の両輪とされてきたコミュニティモデルとメディカルモデルのバランスも、この20年で大きく崩れたように思われる。その背景にも自死を悼むことと防ぐことのバランスの崩れが影響しているというのが筆者の見立てである。すでに起こってしまった自死を振り返り、どういうことが起こっていたのか、背景の文脈まで含めて考えることは、おそらく自死を防ぐための地域づくりに重要な視点を与えてくれる。ただし、ここで強調したいのは人と人のつながりやコミュニティの再生が重要といった単純な話ではない。コミュニティにはメリットだけでなく当然デメリットがあり、コミュニティの凝集性が高まれば、その分だけ人々にとって害となる部分—とりわけ寛容性が低下するといった問題も増えることになる。その状況はむしろ自死について人々が自由に語ることを阻害する環境を準備することにもなってしまうだろう。その意味では、いかにデメリット（害）の部分を減らしながら、自死について自由に語る場を担保していけるのかが、今後の自殺対策におけるコミュニティづくりにとって重要な鍵になるのではないかと考えている。



# 自殺予防公開講演会についての感想

41期  
O.Y.さん

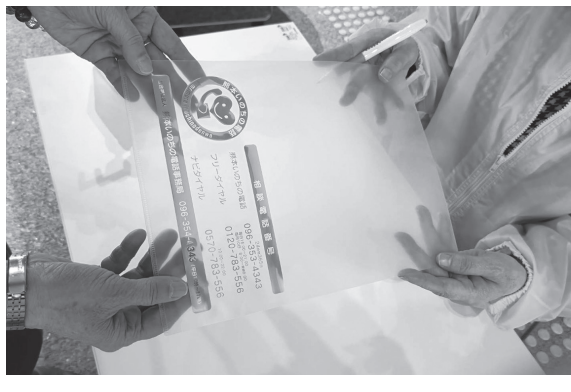
自殺対策基本法から20年の歩みを、勝又さんご自身の葛藤や違和感を交えて語っていただき、自殺者数などの数字や施策の向こう側にある課題に目を向けることができました。

特に印象に残ったのは、「悼むことが不足している」「家族や友人はゲートキーパーにならなくていい」という言葉。実態分析や科学的手法に基づく事例の見直しを欠いては、自死は個人の問題として社会から切り離されてしまいかねません。孤独に沈んでいる時に、専門家とは違った形でそばにいてくれる存在のありがたさは、私にも経験があります。

専門的支援サービスのメリットが強調され、コミュニティでの支えのメリットがあまり話題に上らない、という指摘には、はっとしました。深刻な孤独を抱えた人は医療などの専門家とはつながるが、身近な人とのつながりはむしろ乏しい可能性がある……。こうした傾向は、相談電話からも感じていたことでした。

「生きづらさ」を感じている人を、社会の中で孤立させたくないと思っていました。

自殺対策は難しいけれど、「よき隣人」を目指すいのちの電話は、専門家と身近な人との間にいて、両者をつなぐ役割を果たせるかもしれない、と感じています。



いのちの電話活動周知のための  
クリアファイルの配布は、  
善意銀行のご支援を頂いて  
行っています。

## 第42期生 相談員養成講座 閉講式

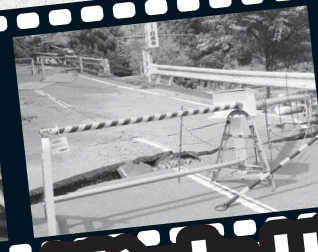
2月24日(火)、第42期相談員養成講座の閉講式を熊本YMCA本館にて行いました。

受講生16名が全課程を終え、14名(2名欠席)が参列しました。光永理事長より一人一人にお祝いの言葉と共に終了証が手渡され、「自分を大切にしながら、仲間とともにあるという思いで活動に臨んで頂きたい」との言葉が贈られました。藤谷研修委員長は、労いと期のつながりを大切に、責任をもって電話を取ってほしいと話され、相談員会会長は、心身の健康と人間関係を大切にしながら活動を続けて下さいと伝えられました。

受講生のみなさんは、約1年にわたる学びの日々を振り返り、それぞれが胸に抱いてきた思いや葛藤を言葉にしました。仲間とともに考え、支え合いながら歩んだ時間を、あらためてかみしめるひとときとなりました。



あれから10年。



# 熊本地震の思い出

前事務局長 赤星 敦

2016年4月14日と16日に起きた熊本地震は「熊本いのちの電話」にも大きな被害を及ぼした。建物内や書庫や機材などは転倒散乱し、室内の壁紙に無数の亀裂が走った。相談室の建物の安全診断、相談員の安否確認の実施を行い、幸いにも相談員に人的被害はなかったが、それぞれの家屋や家財の被害は少なくなかった。

相談員はこんな時だからこそ頑張ろうと励ましあい、前震から40日後、熊本いのちの電話は相談体制を復活することができた。その間、増加する相談と相談体制の課題から、5/24まで九州各県のいのちの電話センターが熊本からの転送電話を受信した。またチャイルドファンドジャパンの助成によりフリーダイヤル熊本地震いのちの電話（0120-87-4343）を開設。電話番号は熊本県内の各市町村や仮設団地へ広報し、2016年7月～2017年7月までに4438件を受信した。その後、チャイルドファンドにかわり日本いのちの電話連盟が2019年3月までフリーダイヤルの運営と費用負担を引き継ぎ、通算7423件となった。

相談内容としては、男性は精神・人生についての相談が多く、女性は精神・人生・家族・対人についての相談が多い傾向にあった。

北九州・福岡・佐賀・長崎・大分・鹿児島・沖縄・愛知・岐阜・三重・島根の各センターの受信協力により、熊本地震の被災者への相談体制を維持することが出来た。

今感じている  
不安な気持ち、  
つらいこと。  
話してみませんか。

熊本地震 いのちの電話  
**0120-87-4343**  
(はなそうしみじみ)

7月1日 12:00から開設、24時間受付・無料です。

**主催** 北九州、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、鹿児島、沖縄  
各社会福祉法人 いのちの電話

**後援** 特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン  
一般社団法人 日本いのちの電話連盟  
熊本県社会福祉協議会

本施策は熊本県地域自殺対策緊急強化基金の支援もいただいています

※熊本地震いのちの電話は2016年～2019年3月まで  
使用されました

# つながる募金

## ソフトバンクつながる募金

熊本いのちの電話にお手持ちのスマホ・PCから簡単にご寄付いただけるようになりました



熊本いのちの電話は 自殺予防を第一の使命として24時間365日 いつでもどこからでも匿名でご相談ができる電話相談窓口です この活動は皆さまからのご寄付によって支えられています 皆さまのご支援が悩める方々の声を受け止める大きな力となります ぜひご協力をお願いします

### ご寄付はこちらから ※「つながる募金」の寄付画面へリンクします

#### ソフトバンクのスマホから

携帯のご利用料金と  
まとめて寄付



ソフトバンクポイント  
で寄付



#### どなたでも

クレジットカード  
で寄付



PayPay  
で寄付



PCからはURL ( <https://kind-line.org/support-1> )または「熊本いのちの電話」を検索

## ふるさとくまもと応援寄附金

熊本いのちの電話の活動に深いご理解とご支援を賜り心より御礼申し上げます  
(2025年12月までにご寄付いただいた方)

(敬称略・順不同)

|       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 赤星 昭典 | 片山 裕視 | 諸藤百合子 |
| 赤星 信行 | 神村 成自 | 柳瀬 一徳 |
| 赤星 敦  | 佐藤 征紀 | 吉田友紀子 |
| 上村幸太郎 | 中島 喜久 | 渡辺 光和 |
| 大塚 道隆 | 福田 稠  |       |
| 岡園 勇治 | 古川 勝法 | 匿名 9件 |
| 片桐 清志 | 村上 一成 |       |

ふるさとくまもと応援寄附金の仕組みにより「情報提供可」の記入が漏れた場合、匿名扱いとなっています。  
お心当たりの方は事務局へお知らせください。

ご支援ありがとうございます

熊本のいのちの電話は多くの皆様に支えられています。感謝をもってご報告させていただきます。

# 寄付感謝報告

(2025年8月1日～2026年2月28日までに確認出来た方)

## 法人・団体の部

(敬称略・順不同)

|   |   |  |  |  |
|---|---|--|--|--|
| アスライズ社労士事務所<br>荒木めぐみ<br>(株)上田商会 上田 修司<br>NTT西日本 熊本支店<br>(株)大橋時計店 大橋 瑠里<br>大村弁護士事務所 大村 豊<br>(株)Office BIS 松村 柳子<br>(株)亀井ランチ 亀井 明德<br>一財) 杏仁会 伊津野良治<br>熊本学園大学<br>熊本企業開発(株) 西尾 英美<br>熊本北ロータリークラブ<br>和田 明大<br>熊本県吟剣詩舞道総連盟 | 熊本県民共済<br>日本福音ルーテル健軍教会<br>熊本市キリスト教連合婦人会<br>熊本第一信用金庫 鴻池 卓児<br>熊本電気鉄道(株) 中島 敬高<br>熊本トヨタ(株)及び従業員一同<br>熊本YMCA<br>(株)コスギ不動産ホールディングス<br>小杉 周司<br>在宅・よろず相談クリニック<br>依 哲<br>サザンリンク(株) 三宅 聡<br>福) 泗水福祉会 齋藤雄二郎<br>シニアの学芸会 大村 豊 | (医) 寿量会<br>誠光寺<br>西部電気工業(株)<br>弁) 大知 田中法律事務所<br><br>(株) タケモト<br>(株) 鶴屋百貨店<br>トリプル・ウィン(有) 田中 一美<br>(株) 南栄開発 深野 政治<br>日本基督教団 熊本草葉町教会<br>日本基督教団 熊本白川教会<br>(株) 肥後銀行<br>まつばせレディースクリニック<br>村本 順一 | 米満弘一郎<br>島村 純孝<br>坂口隆富美<br><br>田中 俊夫<br>武本 英博<br>福岡 哲生<br>田中 一美<br>深野 政治<br>熊本草葉町教会<br>熊本白川教会<br>吉本 寛治 | (株) ミスター・リースリー<br>西 祐一郎<br>森本法律事務所 森本 耕司<br>山崎菅原神社<br>ゆうかり調剤薬局 高井 正照<br>有斐総合法律事務所<br>井上 陽介<br>一社) 夢ネットはちどり<br>堤 弘雄<br>(株) レガメサイン 西田 和弘<br>YMCAチャリティゴルフ会<br>吉本 寛治 |
|---|---|--|--|--|

## 個人の部

(敬称略・順不同)

|   |  |   |  |  |   |   |  |  |
|---|--|---|--|--|---|---|--|--|
| 赤星 敦<br>赤星 寛子<br>安部 真一<br>荒木 伸夫<br>伊藤勢津子<br>稲尾 貞臣<br>井上 新<br>井上 英也<br>犬童富士子 | 上原 仁朗<br>上村みどり<br>上村建二郎<br>江崎 啓子<br>大井 和美<br>大平 啓二<br>大村 豊<br>小笠原嘉祐<br>岡田 洋一 | 岡本 洋子<br>小椋 敏勝<br>小山 和代<br>小山 照映<br>柏尾 秀典<br>片岡 隆治<br>片山 泰祥<br>加藤 敏行<br>河北 敏夫 | 河村邦比児<br>河村 修二<br>岸本 清一<br>木下 修<br>草刈 睦美<br>工藤 典子<br>郡山 和代<br>古賀 秀子<br>小杉 康之 | 小澄 康彦<br>小山 和代<br>酒井 淳一<br>境 正子<br>榎 政彦<br>佐藤 泰生<br>斉藤 登<br>佐藤 征紀<br>繁田 高志 | 千歳 睦男<br>田中 淑子<br>津嶋 基宏<br>堤 弘裕<br>徳永 隆雄<br>中村 賢一<br>中村 直美<br>那須新一郎<br>成松 真 | 野田 幸孝<br>林 修子<br>原 史章<br>開 由美子<br>平野 正憲<br>廣石 妙子<br>藤谷 裕子<br>本田 節子<br>本田 重寿 | 前原八寿之<br>松尾 修<br>松尾妃都美<br>松岡 泰輔<br>松藤 英一<br>光永 尚生<br>宮川 輝之<br>宮崎 拓郎<br>宮部 真一 | 宮本 進夫<br>村上 俊則<br>持永瑞恵・魔子<br>山本輝行・敏子<br>横井 省吾<br>吉本 寛治<br>米光 宏<br>和田 全浩<br>匿名 4件 |
|---|--|---|--|--|---|---|--|--|

※切手、お茶、コーヒー等もありがとうございました。感謝をもって、ご報告させていただきます。

# 募金式自販機寄付

## 募金式自動販売機設置にご協力いただいている方々

(敬称略・順不同)

|  |   |   |  |
|--|---|---|--|
| ウェルフェアホームゆたか事業所<br>A Pパーク桜町<br>おおつかの郷<br>大津陣内メディケアセンター<br>菊陽レディースクリニック<br>北熊本乗馬クラブ<br>九州看護福祉大学<br>九州電機工業(株)<br>九州中央リハビリテーション学院<br>九州ルーテル学院<br>(株)九電工 | 熊本学園大学<br>熊本県医師会館<br>熊本放送(RKK)<br>熊本保健科学大学<br>熊本YMCA<br>桑原クリニック<br>KMバイオロジクス(株)<br>(医)孔子会 孔子の里<br>金剛(株)<br>(株)佐藤産業<br>(株)SYSKEN | (医) 寿量会 熊本機能病院<br>(福) 愛隣会 春光園<br>崇城大学慶賓館<br>大東商事(株)<br>建吉観光土地(株)<br>(株)建吉組<br>(医) 寺尾会 寺尾病院<br>(医) 聖公会 中村整形外科<br>(株)南星機械<br>(株)Denzai<br>(特非)花織部 | ハヤカワスポーツ<br>ヒロ・デザイン専門学校<br>(医) 愛育会 福田病院<br>不二高圧コンクリート(株)<br>ホテルサン人吉<br>松尾建設(株)<br>まつばせレディースクリニック<br>御船町<br>(株)ミヤムラ<br>湯前町<br>(福) 啓明会 峇山寮 |
|--|---|---|--|

サントリービバレッジサービス(株)、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、(株)伊藤園の3社のご協力を頂き、自販機によるご寄付の仕組みを準備しております。各自販機設置者様のご支援と上記3社のご協力に感謝申し上げます。

シャッターチャンス

熊本トヨタ自動車(株)様より  
マッチングギフトを  
頂きました

(左 熊本トヨタ自動車(株)社長 井原宏様)

熊本県  
吟剣詩舞道総連盟  
寄付贈呈

(中央 藤城創丈様 右 事務局次長 伊東響峰様)

一社) 夢ネット  
はちどり様より  
ご寄付を  
頂きました

(左 夢ネットはちどり代表理事 堤弘雄様)

県民共済様より  
ご寄付を  
頂きました

(左 県民共済理事長 後藤一昭様)

草葉町教会様より  
ご寄付を  
頂きました

(左 牧師 森嶋道様)

熊本いのちの電話  
第43期電話相談員

# 養成講座受講生募集!!



「熊本いのちの電話」では、孤独や悲しみ、辛い思いを抱いた方の相談を24時間受けています。  
カウンセリングの基礎や電話対応を学びますので、経験がない方でも大丈夫です。  
あなたのやさしさをボランティアに活かしませんか。深夜の電話当番ができる方歓迎です。

講座時間 毎週火曜日 18時30分～20時30分(2時間)  
会場 熊本YMCA 本館(中央区段山本町4-1)  
費用 前期10,000円、後期12,000円(学割有)

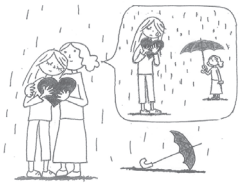
期間 前期 2026年5月12日～2026年9月15日(予定)  
後期 2026年9月29日～2027年3月16日(予定)  
年齢 20歳～70歳以下  
募集期間 3月5日(木)～4月22日(水) 当日消印有効

※詳しい案内をご希望の方には、資料をお送りいたしますので事務局までご連絡ください。

参加費  
無料

## 事前説明会のご案内

養成講座にご興味がある方に向け、活動や講座の内容をご紹介します  
説明会は各回1時間30分で同じ内容です。皆様のご参加お待ちしております。  
※ホームページでも募集の説明動画をご覧ください。



開催日

2026年 4月7日(火) 18:30～ / 4月16日(木) 14:00～ / 4月18日(土) 10:00～

会場

くまもと県民交流会館パレア 会議室4

定員

各回20名

※事前説明会に参加しなくても受講生に応募できます。

問い合わせ先

熊本いのちの電話事務局(平日10:00～17:00) 電話(096)354-4343 FAX(096)354-4665

申込み先



編集  
後記

2月に開催された自殺予防公開講演会、勝又陽太郎先生の講話は貴重な学びの時間であった。先生から「紀元前5世紀には自殺の善し悪しが議論されていた」とのお言葉。2500年以上も前から？早速ネットに尋ねてみる。曰く、人間は神の所有物であり、肉体は魂を閉じ込める「牢獄」神の許可なくその場を離れることは悪!曰く、自分自身への不正であるだけでなく、「国家に対する義務の放棄」だから悪!だけど、耐えがたい苦痛や神から下された避けられない運命がある場合は容認もあり!この議論は、現在の、生命は神聖であり、自ら断つことは許されない。残された家族への苦痛も合わせて悪!でも尊厳死、安楽死もしっかり向き合うべきとの議論にそのまま続いている。プラトンが考えていたことを現在も考え続けているなんて…。そこで気付く、善し悪しの断定って我々の活動に大切なことだけ?改めて日本いのちの電話連盟のHPを開いてみる。「人が生きていくうえで何よりつらいことは孤独であると言われてます。いのちの電話は、孤独でつらい思いをしている方々が再び生きる力を取り戻せるよう活動しています」(抜粋)  
自らの活動を再確認する講演にもなった。

## 事務局日誌

令和7年9月～8年2月

| 9月  | 10日～17日 | 連盟168時間連続フリーダイヤル参加       |
|-----|---------|--------------------------|
| 11月 | 2日      | 全体研修会・講師:加藤博仁氏           |
|     | 11日     | イオン黄色いレシート店頭活動           |
|     | 27日     | 熊本学園大学・出前講座              |
| 12月 | 6日      | 2027年全国大会 九州沖縄ブロック事前会議参加 |
|     | 20日     | 熊本トヨタ自動車(株) 寄付贈呈式        |
|     | 22日     | 熊本県民共済 寄付贈呈              |
|     | 26日     | 熊本県吟剣詩舞道総連盟 寄付贈呈         |
| 1月  | 13日     | 草葉町教会 寄付贈呈               |
|     | 24日     | 九州沖縄ブロック会議参加             |
| 2月  | 3日      | 熊本県障がい者支援課より訪問           |
|     | 11日     | イオン黄色いレシート店頭活動           |
|     | 20日     | 一社 夢ネットはちどり 寄付贈呈式        |
|     | 23日     | 自殺予防公開講演会                |



社会福祉法人 熊本いのちの電話  
事務局

〒860-8691 熊本中央郵便局私書箱155号  
TEL096-354-4343

発行人:光永 尚生 編集:広報委員会

熊本いのちの電話

検索

相談電話(24時間365日) 096-353-4343